

## 秋田焼山の火山活動解説資料（令和8年1月）

仙 台 管 区 気 象 台  
地域火山監視・警報センター

GNSS 連続観測では 2020 年中頃から秋田焼山を挟む基線で伸びの変化が継続していますが、その他の火山活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・ 噴気など表面現象の状況（図 1、図 2-①）

焼山監視カメラ（東北地方整備局）による観測では、叫沢源頭部の噴気の高さは噴気孔上30m以下で経過しました。今期間、噴気活動に特段の変化はなく低調に経過しました。

#### ・ 地震や微動の発生状況（図 2-②）

火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

#### ・ 地殻変動の状況（図 3、図 5）

GNSS 連続観測で認められている 2020 年中頃からの秋田焼山（及び八幡平）を挟む基線の伸びの変化は継続しています。

---

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

次回の火山活動解説資料（令和8年2月分）は令和8年3月9日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院及び東北大学のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています。



図1 秋田焼山 湯沼と叫沢源頭部の状況（1月10日）

・東北地方整備局が設置している焼山監視カメラ（山頂の西約2km）の映像です。

注）監視カメラからは直接見えませんが、黄破線が湯沼の位置を示します。湯沼から噴気が噴出した場合は高さ50m以上のときに観測されます。

叫沢源頭部からの噴気の高さは30m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

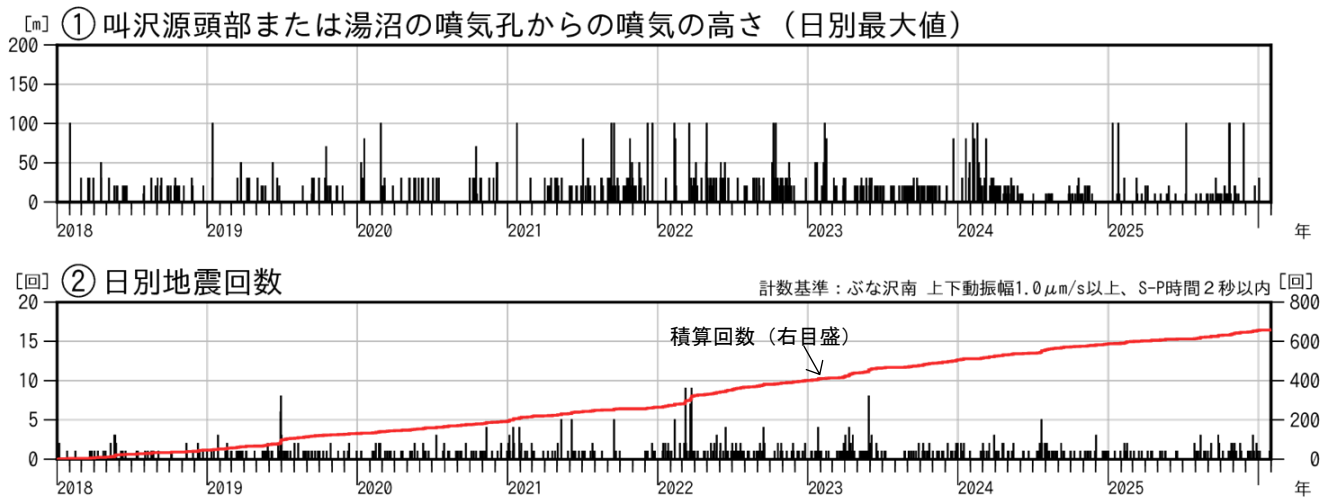


図2 秋田焼山 火山活動経過図（2018年1月～2026年1月）

今期間、噴気活動と地震活動は低調に経過しました。

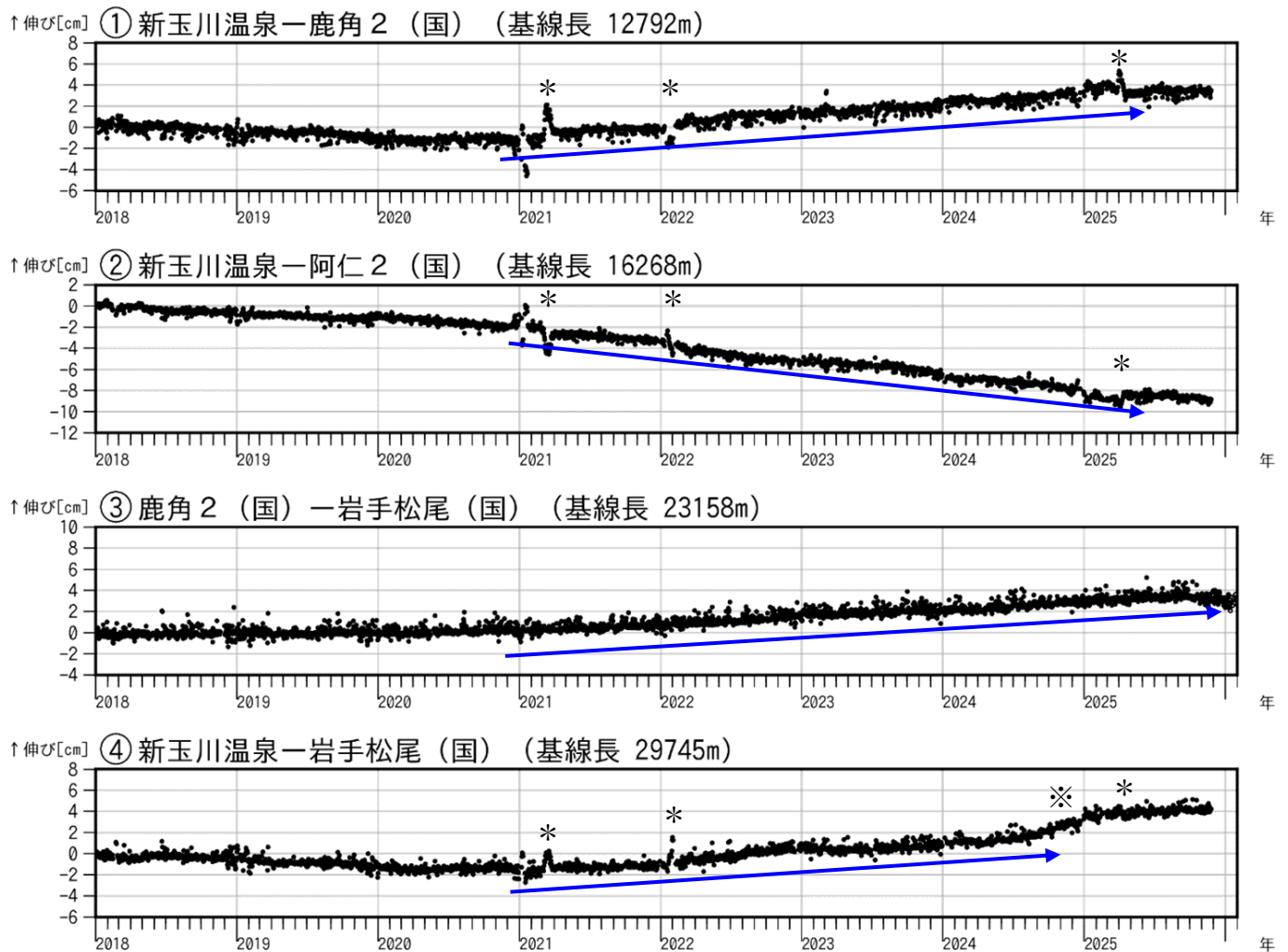


図3 秋田焼山 GNSS 基線長変化図（2018年1月～2026年1月）

- ・①～④は図5のGNSS基線①～④に対応しています。
- ・空白部分は欠測を表しています。・（国）は国土地理院の観測点を表します。
- \*：2020年12月から2021年3月、2022年1月から2月及び2025年3月から4月にかけての新玉川温泉観測点の変動は、火山活動に起因するものではないと考えられます。
- ※：岩手山の火山活動に関連する変化と考えられます。

GNSS 連続観測で認められている2020年中頃からの秋田焼山（及び八幡平）周辺の基線の伸びや縮みの変化は、新玉川温泉を含む基線を除いて継続しています（青矢印）。

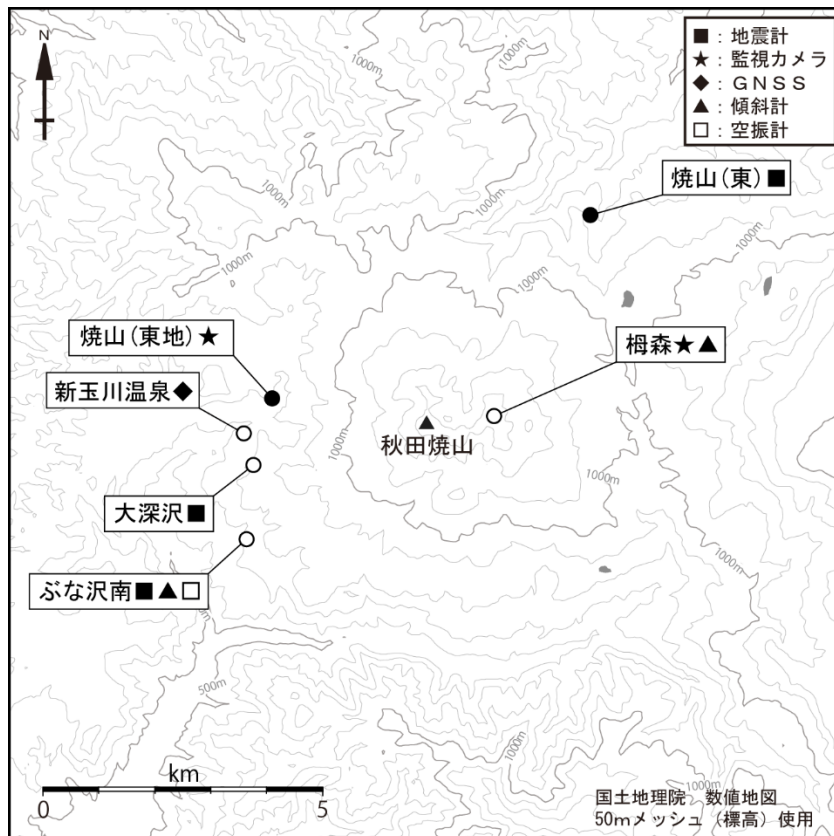


図4 秋田焼山 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（東地）：東北地方整備局 （東）：東北大学

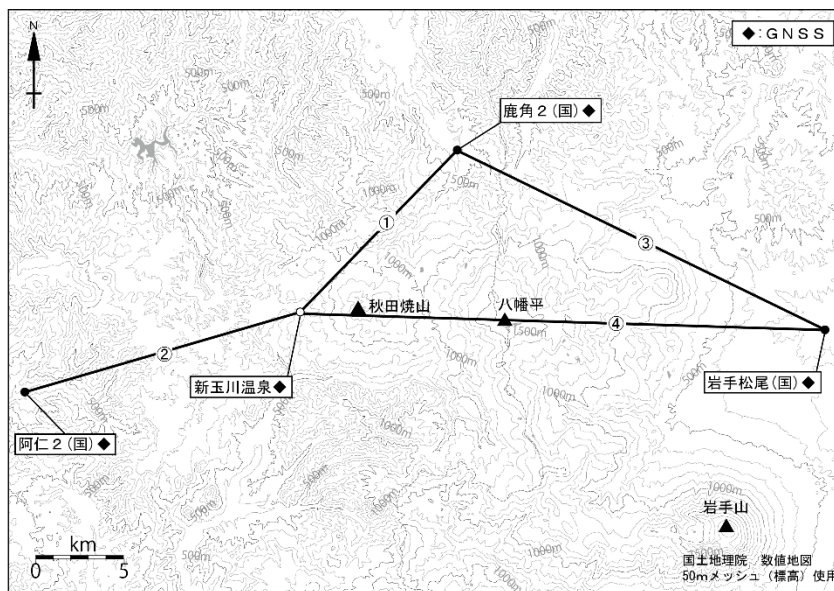


図5 秋田焼山 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院